

情報セキュリティ技術

Information Security Technologies

巻頭言

情報セキュリティの総合的研究開発——矛盾の超克という視点から

Research and Development for Integrated Information Security
— From the Viewpoint of Overcoming Contradictions

人間と社会はもともと矛盾多きものですが、インターネットなど情報ネットワークの普及は、それらの矛盾を拡大し、先鋭化かつ遍在化しています。例えば、Street Viewは、便利さとプライバシー侵害が裏と表にはり付いています。他人のプライバシーはのぞきたいし、自分のそれは見られたくないのが人情です。情報化の進展はわれわれの自由を著しく拡大しましたが、それと同時に、安全・安心感の向上、及びプライバシー保護などの課題を引き起こしました。これらの三つの価値は、互いに矛盾し相克することが多いので、「バランスを取ることが大事ですね」ということばをよく耳にします。しかし、はじめからバランスと言っていたのでは、住みよい社会は期待できないでしょう。自由、安全、プライバシーという三つの価値を可能なかぎり満足させるよう、暗号などの技術と、法制度や、経営管理、監査、事業継続計画、情報倫理・心理、人間行動論などの知見を総動員し、強く連携させ密結合させて高度均衡を図ること、すなわち止揚することが情報セキュリティの研究開発の理念ではないか、と私は考えてきました。

技術者や研究者は、個々の専門的課題を深く掘り下げるとともに、広い視点から情報社会を総合的にとらえ、様々な場面で止揚を図る工夫が求められているのではないのでしょうか。

2008年の12月、私は、日本経済新聞社の社長朝食会で、東芝の西田社長(当時)の講演を拝聴し、社員の一般教養の涵養(かんよう)にも力を入れておられることをうかがい、深い感銘を受けました。教養の没落という文化現象が生じてだいたいでしたが、情報セキュリティという社会・産業基盤を堅固にするためには、専門家が、総合力と止揚力の涵養という意味での教養を深めることが大事だということを、今年の3月に退任した情報セキュリティ大学院大学の学長を務めながら考えた次第です。

東芝が、1980年代という早い時期から、暗号技術をはじめとする情報セキュリティ技術分野で、多くの実績を上げてこられたことに敬意を表するとともに、今後とも広い視野に立って、日本と世界に貢献されることを祈念しています。

辻井 重男
TSUJII Shigeo